

特集

金環日食観測会、和歌山大学学生の活躍

富田晃彦（和歌山大学教育学部）

1. はじめに

和歌山大学教育学部の天文ゼミ（富田が指導）には、現在、学生が3人います。2012年5月21日の金環日食では、4回生の辻岡宥作君が白浜、M2の境原周太郎君が串本、M2の宮崎恵二君が和歌山大学グラウンドと、3人それぞれが和歌山県内あちこちで観望会の案内役を務めました。ここではその報告をします。

富田自身は本務と重なり、残念なことに、観望会案内役を務めることはできませんでした。しかし出勤途中、多くの人があちこちのマンションのベランダから、また、駅へ急ぐ道で、日食グラスで天を見上げていたのを、嬉しく見ることができました。

2. 白浜での観望会

主催者：ALL 白浜 “ここでしかできない旅”

実行委員会（観光関係団体で構成された団体）

場所：旧白浜空港滑走路跡

参加者：地域の方、観光で宿泊の方、2000人以上

内容：日食グラスを配布し、辻岡君の案内とともに肉眼での観望を楽しんでいただいた。白浜町の観光案内も並行して開かれた。観望：食の前半、よく晴れた。事故なく、楽しんで金環食をご覧いただいた。

和歌山県白浜町教育委員会と観光課の方より、白浜での観望会での協力依頼がありました。4回生の辻岡君が観望会講師としてはひとりで出向くことになりました。



図1 旧白浜空港滑走路跡の会場で、マイクで、安全な日食グラスの使用法を説明する辻岡君（白浜町観光課より写真提供）。

大学のゼミの時間を利用し、皆で検討した想定問答では、「天文のどんな話をしても、ブラックホールは？という質問が来る」ということで対応していました。珍しくこの質問は出ず、「隣にあるバラ園は有名なのか？」というほほえましい質問もありました。この日食グラスの遮光はどのくらいか、という質問もあり、日食グラスの安全性に関する、関係の方々の啓発活動のたまものと感じました。

3. 串本での観望会

主催者：南紀金環日食実行委員会（地元の有志団体）

場所：串本の名勝、橋杭岩の駐車場

参加者：地域の方、観光で来た方、約1000人

内容：会場にトークのブースと観望スペースがあり、トークのブースから案内を流しつつ、参加者は観望を楽しんでもらった。トークはZTVのアナウンサーの太田志帆さ

んがメインで進行をし、境原君が受け答えをするという形。日食グラスを持っている人は日食グラスで楽しんでいただいた。案内では、ピンホール法を紹介し、麦わら帽子で実演した。

観望：前日は大荒れの天気、当日も食開始までは曇天だったが、食が始まると終了まで晴れ、事故なく楽しむことができた。

天文ゼミ昨年度修士修了で現在高校の講師の太田昇君の知人の南畑義明さんをはじめ、観光関係者の方々が立ち上げた南紀金環日食実行委員会です。当日の講師を探していたところ、境原君が講師としてはひとりで出向くことになりました。

ピンホール法を知らない人がたくさんおり、麦わら帽子で実演すると多くの人が集まってきました。不思議そうにじっと見たり、写真を撮ったりして楽しんでいただきました。「50円玉の穴でもピンホールに使えますか？」という、なるほど、という質問がありました。50円玉の穴もピンホールに使えますねと返事をしたら、勘違いして50円玉の穴から太陽を覗こうとする方が！もちろん、即止めて、また、注意喚起のアナウンスを入れました。

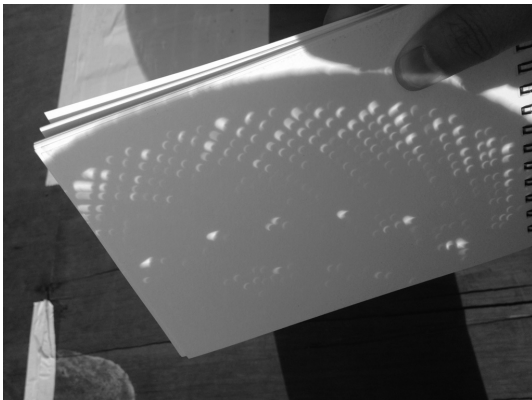


図2 境原君によるピンホール法の実演：麦わら帽子で作った、穴けた太陽像。

4. 和歌山大学での観望会

主催者：和歌山大学観光学部科学文化ゼミ(尾久土正己さん、中串孝志さんの指導)、和歌山大学宇宙教育研究所(IFES)が協力
場所：和歌山市立藤戸台小学校及び和歌山大学グラウンド

参加者：藤戸台小学校の低学年は小学校で、高学年は大学グラウンドで。大学グラウンドは、保護者や一般の方も含め、約300人

内容：H フィルターを取り付けた望遠鏡での観望と、東海大学からのインターネット画像配信を行った。テレビ朝日が取材に来た。大学のブラスバンド部も応援に。

観望：食の時間は晴れ、日食グラスも使いながら、事故なく楽しんでいただいた。

宮崎君は、大学グラウンドでの観望会での案内役のひとりとして参加しました。小学生への指導には観光学部科学文化ゼミの学生と教育学部の学生、合計19名が担当しました。

小学生には日食グラスを配布し(すでに持っている生徒は持っているものを使ってもらった)、使い方及び安全な日食の見方を指導しました。指導者には牛乳パックで作られたピンホールを配布しました。7時に小学生が多目的グラウンドに到着したあと、来た順に10名ずつ指導者が十分なスペースのあるところに連れて行き、各自安全な日食の見方を指導しました。ブラスバンド部も星に関する曲を演奏し、場を盛り上げていました。

小学生の反応としては、「すごい!」「輪っかになった!」などと率直な感想を口々に発していました。それまで反応が薄い子でも、金環になった時は驚いたようにずっと見ていました。ピンホールでも輪っかが見えることで子供たちは驚いていました。保護者たちも「綺麗」などと思っていたことを口にしていました。子供たちは全体的にすぐ飽きる傾向があり、ある程度日食を見たら他の事たわむ

れたりするなどして時間をつぶしていたが、保護者の方々は何回も日食を見たり担当の人に質問したりなどをし、非常に興味深そうでした。

宮崎君の感想：日食時に気温が下がるのを、身をもって体感した。知識としては知っていたが、想像以上に体感したので非常に驚いた。ベイリー・ビーズはさすがに観察することはできなかった。子供たちは、真剣に指導をしても、時間がたてば少し雑な見方をしていたので少し危険であった。保護者の方々も興奮すると雑な見方をしている方が少し見受けられた。金環日食を直視する危険感が薄いという印象を持った。イベント会場では、金環日食を見に来るという意識とスタッフの呼びかけがあったので直視する人は非常に少なかったのですが、ツイッターや友人の連絡などを見ると、気軽に直視する人が少なくなかったです。個人的に、今回の金環日食を写真におさめることができなかつたのが非常に後悔しています。次の金環日食は旅行がてらカメラ片手に自分の手で写真を撮りたいです。



図 3 宮崎君によるピンホール法の実演：尾久土さんが広報されていた牛乳パックピンホールカメラ [1] による、欠けた太陽像。

文献

- [1] 尾久土正己さんによる「2012 金環日食牛乳パック望遠鏡」のウェブページ：
<http://www.wakayama-u.ac.jp/~okyudo/eclipse2012a.html>

謝辞

学生が案内役として準備するに当たり、多くの講習会にお世話になりました。

福江純さんが中心となって大阪教育大学天王寺キャンパスで昨年度から今年度にかけて3回にわたって開いた講習会「2012年金環日食講習会 in 大阪」は、こちらの学生も足を運びました。

和歌山大学宇宙教育研究所による講演会や研修会も、学生にとって貴重な情報源となりました（4月27日の「宇宙カフェ」、5月13日の串本町文化センター大ホールでの講演会、以上は吉住千亜紀さん担当、4月26日の和歌山大学内の講演会、尾久土正己さん担当）。

白浜での観望会では、白浜町教育委員会の十河崇様をはじめとする皆様方、白浜町観光課の泉芳明をはじめとする皆様方には、大変お世話になりました。串本での観望会では、南紀金環日食実行委員会の皆様方、串本町役場の皆様方に大変お世話になりました。

富田 晃彦（とみた あきひこ）